

平成27年度 小松市立東陵小学校 学校評価結果報告書

小松市立東陵小学校

	自己評価				学校関係者評価	次年度に向けての改善計画	
	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取組の状況	達成状況		学校関係者評価者による意見
① 組織的な学校運営	<p>&lt;PDCAサイクルの確立&gt;</p> <p>主任主事を中心とした組織的な学校運営の中で、PDCAサイクルを意識して適切な評価を行い、課題の把握と解決、改善を行う。</p>	<p>【努力指標】</p> <p>全職員がPDCAサイクルを意識して検証・改善を行い、課題解決に努めた。</p>	<p>PDCAサイクルを意識して</p> <p>A:十分取り組んでいる</p> <p>B:取り組んでいる</p> <p>C:あまり取り組んでいない</p> <p>D:取り組んでいない</p>	<p>学校評価分掌部会を定期的に設けたことで、計画・実行・評価・改善が組織的に確実に行われた。学期毎に取組に対する分析・改善策立案を行うことで、年間を通して取組内容が充実していった。</p>	A	<p>・今年度から学校評価分掌部会を設けたことで、学期毎の取組に対する分析・検証がしっかりと行われていると感じた。そのことは、本会の資料が充実していることから伺える。学期毎に次に向けての改善策も立案され、PDCAサイクルの確立を目指した取組として、学校の努力と工夫が感じられる。教員自己評価では、取組による成果がみられるものについては、もっと評価をよくしてもよいと思う。</p>	<p>■来年度も学校評価分掌部会を組織し、年度当初に立てた目標及び取組に対する検証・改善策立案を定期的に行っていく。部会の時期や回数については、今年度の状況を踏まえて検討していく。また、学校評価全体も定期的に開催し、共通理解を図り組織的な学校運営を目指す。各評価項目に対する評価方法については、今年度の課題となった部分については修正しながら、よりよい評価のあり方を探っていく。</p> <p>■今日的課題を踏まえて、本校の実態に応じた各種研修会を計画的に実施していく。その際、各種研修会が充実するように、目的を明確にして企画・運営を行っていく。</p> <p>■生徒指導の3機能を意識した授業実践を推進し、児童の自己肯定感を高める手立てを行う。また、「いじめ問題対策年間指導計画」の見直しを行い、全校体制でいじめの未然防止に努める。</p>
	<p>&lt;人材育成&gt;</p> <p>教職員の授業力、生徒指導力、学級経営力の向上のため、校内研修等を充実させ、人材育成を図る。(学びの指針⑩)</p>	<p>【努力指標】</p> <p>目的を明確にした各種研修会を企画・運営し、人材育成に努めた。</p>	<p>人材育成を意識して</p> <p>A:十分取り組んでいる</p> <p>B:取り組んでいる</p> <p>C:あまり取り組んでいない</p> <p>D:取り組んでいない</p>	<p>学校研究や学力向上に関する研修会の他に、様々な分野の研修会を企画し、実施することができた。職員会議の中でミニ研修会を設け、研修の機会を確保するように努めた。</p>	A	<p>・人材育成のための研修会は、とても大切だと思う。研修内容・研修時間・講師選定等において、工夫しながら実施されていることが分かった。</p>	
	<p>&lt;いじめ・不登校対応&gt;</p> <p>生徒指導の3機能に基づいた指導を実践し、チームを組んでいじめや不登校問題等の未然防止や解決に向けて迅速な対応を行う。</p>	<p>【成果指標】</p> <p>児童のいじめに対する意識や自己肯定感が高まった。</p>	<p>質問紙調査等の肯定的回答割合</p> <p>A:85%以上</p> <p>B:70～84%</p> <p>C:50～69%</p> <p>D:50%未満</p>	<p>諸問題に対してチームで組織的に対応し、実態把握・情報収集・対応策の協議・実践に努めた。定期的に自己点検カードを実施し、生徒指導の3機能を生かした授業実践の推進を図った。年度当初より児童の自己肯定感が高まった。</p>	A	<p>・いじめ・不登校等の問題が生じた時に、組織としてどのように対応していくのが大切である。また、アンケート調査の結果から「学校が楽しくない」と回答した児童には、何らかの手立てを行うことが、いじめ・不登校等の未然防止につながると思う。</p>	
② 確かな学力の育成	<p>&lt;授業力の向上&gt;</p> <p>授業改善強化ポイントを意識した授業研究を行い、課題解決に向けて、自ら考え、共に学び合う子の育成をめざす。(学びの指針①～⑥)</p>	<p>【努力指標】</p> <p>課題提示の工夫、児童主体の学び合い、充実したふり返りを意識した授業実践に努めた。</p>	<p>授業改善強化ポイントを意識して</p> <p>A:十分取り組んでいる</p> <p>B:取り組んでいる</p> <p>C:あまり取り組んでいない</p> <p>D:取り組んでいない</p>	<p>授業改善強化ポイントを共通理解し、教室掲示も行うことで、教師の意識化が図られ共通実践を行うことができた。そのため、児童アンケートでは、「授業が分かりやすい」と感じている児童の割合が9割程度となっていた。</p>	A	<p>・児童アンケートの調査結果から、「授業が楽しくない」と回答した児童の割合が高学年になるほど高くなっている。学校研究の取組と関係付けて、様々な教科で授業研究を行う必要がある。</p>	<p>■今年度提示した「授業改善強化ポイント」を継続させ、「小松市わかる授業プロジェクト」をもとにした授業づくりを進める。また、学校研究は国語科を中心に据え、単元のねらいに迫る言語活動を適切に設定した授業実践を深めていく。</p> <p>■学力調査問題を授業や帯タイム等の中で効果的に活用し、基礎基本の力と共に、活用の向上を目指す。授業規律に関しては、「授業のきまり4か条」を継続して取り組み、学習の基盤を整えていく。</p> <p>■校内の読書環境を更に整備し、読書量の確保と質の向上を目指す。並行読書については、国語科学習と効果的に関連させながら、計画的に行っていく。その際には、学校図書館司書との連携を深め、ねらいに合った資料選定を行うことで、並行読書の質を高めていく。</p>
	<p>&lt;学力の向上&gt;</p> <p>授業改善・学習規律の徹底・チャレンジタイムの充実を図り、学習内容の確実な習熟と定着をめざす。(学びの指針⑦)</p>	<p>【成果指標】</p> <p>各種学力調査、チャレンジ計算テスト、CRTテストにおいて正答率が向上した。</p>	<p>各種テスト結果の達成率が</p> <p>A:85%以上</p> <p>B:70～84%</p> <p>C:50～69%</p> <p>D:50%未満</p>	<p>チャレンジタイムでは、目的を明確にした問題選定を行い、基礎基本・活用の育成に努めた。学習規律については、授業のきまり4か条を示し、共通実践を行うことができた。</p>	B	<p>・学力に関しては、どうしても個人差が出ると思うが、学習内容の定着が悪い児童に対する手立てを十分にお願いしたい。授業の中だけではなく、放課後学習や家庭学習も充実させていくとよいだろう。</p>	
	<p>&lt;読書活動の充実&gt;</p> <p>朝読書・並行読書の実施及び読書環境の整備に努め、豊かな言葉と豊かな心を育む。(学びの指針⑧)</p>	<p>【努力指標】</p> <p>朝読書・並行読書の効果的な実施に努め、豊かな言葉と心の育成に努めた。</p>	<p>朝読書・並行読書を</p> <p>A:効果的に実施した</p> <p>B:実施した</p> <p>C:あまり実施しなかった</p> <p>D:実施しなかった</p>	<p>朝読書の取組は概ね定着している。並行読書は国語の学習と関連させ、全学年で計画的に行われた。図書室・廊下等を中心に読書環境の整備に努めたので、日常的に本に親しむ児童が増えた。</p>	B	<p>・読書に関しては、どうしても個人差が出ると思うが、学習内容の定着が悪い児童に対する手立てを十分にお願いしたい。授業の中だけではなく、放課後学習や家庭学習も充実させていくとよいだろう。</p> <p>・朝読書の時間には、児童はどのような本を読んでいるのか。いろいろな本に触れることのできる環境づくりが大切である。また、読み聞かせ等で図書ボランティアの方が活動されているが、保護者だけではなく広く地域の方に協力を呼びかけてはどうか。そうすることで、更に地域との連携が深まっていくと思う。</p>	
③ 豊かな人間性の育成	<p>&lt;人間関係力の向上&gt;</p> <p>児童会を中心とした縦割り活動を充実させることで、人間関係力の向上と共に高学年のリーダーシップの育成を図る。(学びの指針②⑤)</p>	<p>【成果指標】</p> <p>縦割り活動の充実を図り、発達段階に応じた人間関係力の向上がみられた。</p>	<p>人間関係力の向上に</p> <p>A:好ましい変容がみられた</p> <p>B:変容が少しみられた</p> <p>C:変容がみられない</p> <p>D:後退の状況がみられた</p>	<p>児童会を中心とした縦割り活動を計画的に実施し、異学年同士の交流を深めることができた。また、高学年児童の活躍の場を設けることで、リーダーシップの育成に努めたが、個人差がみられた。</p>	B	<p>・縦割り活動を行うことで、学年間の交流が図られているのは、よいことである。高学年のリーダーシップに弱さがみられることについては、引き続き手立てを行ってほしい。</p>	<p>■児童会を中心とした縦割り活動の充実を図り、高学年の自主性とリーダーシップを高めていく。行事だけではなく、そうした地域なかよし会等においても、効果的な異学年交流が行われ、高学年のリーダーシップの発揮がなされるように工夫していく。</p> <p>■家庭や地域と連携した道徳教育を目指し、効果的な地域教材及び地域人材の活用のあり方を探っていく。そのため、人材リストの作成・実践例の提示を行う。また、授業改善を進めるために、発問や板書の工夫をテーマにした校内研修会を実施する。</p> <p>■「小松市情報モラル教育システム」に加えて、今年度本校で作成した「情報モラル教育計画案」も活用した授業実践を進める。</p>
	<p>&lt;道徳教育の充実&gt;</p> <p>道徳授業の充実及び家庭や地域と連携した道徳教育の推進を図ること、豊かな心を育む。(学びの指針⑦⑩)</p>	<p>【努力指標】</p> <p>発問や板書の工夫、地域教材・地域人材の活用による、道徳教育を推進した。</p>	<p>道徳教育の推進を意識して</p> <p>A:様々な取組を積極的に行った</p> <p>B:いくつかの取組を行った</p> <p>C:あまり取組まなかった</p> <p>D:取組まなかった</p>	<p>地域教材及び地域人材の活用については、全学級で行われ、地域とつながる実践が行われた。道徳研修会での学びを生かして授業改善を図ろうとする教師の意識が高まった。</p>	B	<p>・道徳教育での地域人材の活用については、とてもよいことだと思うが、校区内の人材だけでは限りがある。東陵地区にこだわらず小松市全体に広げてみると、連携の幅が広がるのではないかと。</p>	
	<p>&lt;情報モラル教育の推進&gt;</p> <p>情報モラル指導、情報安全教育を行うことで、正しく情報機器を活用する力を育成する。(学びの指針⑦)</p>	<p>【努力指標】</p> <p>情報モラル指導、情報安全教育を実施し、情報活用力の向上に努めた。</p>	<p>情報モラル教育の推進に向けて</p> <p>A:十分に取組んでいる</p> <p>B:取り組んでいる</p> <p>C:あまり取り組んでいない</p> <p>D:取り組んでいない</p>	<p>全学級において「小松市情報モラル系統表」を活用した授業実践が行われ、情報モラルに対する意識を高めることができた。本校版「情報モラル教育計画案」を作成することができた。</p>	B	<p>・情報モラル教育は今日的課題であり、保護者の関心も高く、家庭でも教育できる部分があるので、今後も積極的に保護者への啓発をしていくとよいと思う。</p>	

	自己評価				学校関係者評価	次年度に向けての改善計画	
	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取組の状況			達成状況
④ 健やかな体の育成	<p>&lt;体力・運動能力の向上&gt; 持久走・スポチャレ・1校1プラン等の取組を通して、体力・運動能力を育成する。</p>	<p>【成果指標】 体育的な取組を充実させることにより、体力・運動能力の向上がみられた。</p>	<p>体力・運動能力に関して A:好ましい変容がみられた B:変容が少しみられた C:変容がみられない D:後退の状況がみられた</p>	<p>本校の課題である長座体前屈・復横跳びに関連する運動を継続的に行うことで、学期毎に平均測定値が向上している。持久走大会に向けた取組を行うことで、学年目標タイムの達成率が約8割となった。</p>	A	<p>・体力・運動能力の向上を目指して、重点項目について毎学期継続して取り組んでいることは評価できる。学年によって、体力の状況に差があることについては、授業等で弱点を補強する手立てを考えるとよい。</p>	<p>■今年度の状況を踏まえて、来年度は体力・運動能力の向上に関する重点項目を柔軟性と持久力に絞り、取り組んでいく。また、持久走大会や大縄とび大会等に向けての取組を工夫し、一人一人の児童が目標を持って意欲的に運動できるようにしていく。 ■学期毎に、生活習慣強化週間を設け、アンケート調査も行うことで、児童や保護者の意識を高めていく。また、発達段階に応じた手立てを考え、学級単位での保健指導を定期的に行う。 ■栄養教諭と連携した食育授業の実践を継続して行い、児童の食生活改善の意識を高め、よりよい食習慣の定着を目指す。また、食育通信を定期的に発行し、保護者の食育に対する意識を高めていく。</p>
	<p>&lt;基本的な生活習慣の確立&gt; 基本的な生活習慣・けがの予防・健康的な時間の使い方等に関心を持ち、日常生活をよりよく過ごす態度を育成する。(学びの指針⑦)</p>	<p>【努力指標】 学校教育活動全体を通して、日常生活をよりよく過ごす態度の育成に努めた。</p>	<p>よりよい生活習慣の育成に向けて A:十分に取り組んでいる B:取り組んでいる C:あまり取り組んでいない D:取り組んでいない</p>	<p>強化週間・保健指導の取組を定期的に行うことで、児童・保護者の生活習慣改善に対する意識を高めることができた。全体を通して早寝・早起きをする児童が増加し、けがをする児童が減少した。</p>	A	<p>・遅刻をする児童がほとんどいないということは、基本的な生活習慣が身に付いている児童が多いといえる。今後も、学校での取組を継続してほしい。</p>	
	<p>&lt;保健・食育指導の充実&gt; 保健・食育の学習を通して、自己の生活をふり返り、生活改善力を育成する。(学びの指針⑦)</p>	<p>【満足度指標】 保健・食育の学習を通して、自己の生活改善力の向上を実感している。</p>	<p>アンケートの肯定的回答割合 A:85%以上 B:70～84% C:50～69% D:50%未満</p>	<p>栄養教諭と連携し、食育の授業を全学年で計画的に実施した。また、食育通信を定期的に発行し、家庭への啓発を行った。その結果、食の大切さに気づき、バランスを考えて食べようとする意識が高まった。</p>	B	<p>・食育の取組は給食が中心となっているが、朝食に関する取組も合わせて行うとよい。朝食の質を高めることは、集中力の向上や熱中症の防止に効果がある。同じ校区の中学校では、保護者対象の教養講座で子どもの食事のあり方について学ぶ機会があるので、その取組も参考にしていこうとよい。</p>	
⑤ 家庭・地域との連携	<p>&lt;あいさつのできる子の育成&gt; 家庭・地域と連携して、自ら進んで気持ちのよいあいさつのできる子を育てる。(学びの指針⑨)</p>	<p>【満足度指標】 自分から進んで気持ちのよいあいさつのできるようになった。</p>	<p>アンケートの肯定的回答割合 A:85%以上 B:70～84% C:50～69% D:50%未満</p>	<p>進んであいさつをすることに対する児童や保護者の評価は向上してきている。児童会の取組・生活目標と関連させた取組が定期的実施されているが、より工夫された内容が求められる。</p>	B	<p>・交通安全週間、あいさつ運動週間の時に、町内に立っている元気よくあいさつのできる子どもが多いと感じる。これらの期間以外でも進んであいさつのできるように、家庭や地域に働きかけるとよい。</p>	<p>■児童会が中心となるあいさつ運動を活性化し、学校ぐるみでの取組を充実させていく。また、家庭や地域との連携を図り、いつでもどこでも進んであいさつのできる子を指す。 ■学年目標学習時間の達成率を高め、家庭学習の量を確保すると共に、家庭学習の質の向上を目指す。そのため、学校での学習内容とつながりのある学習課題を設定する等して、家庭学習に対する意欲付けや学習内容の充実を図っていく。 ■学校の取組や児童の様子を家庭や地域に発信していくために、定期的に授業参観等の実施、各種通信の発行を行っていく。学校評議員会や育友会運営委員会において、学校の教育活動を発信すると共に、地域の方や保護者の意見を吸い上げ、取組に反映させていく。また、地域人材を活用した授業実践を推進し、地域に根ざした教育活動の充実を図る。</p>
	<p>&lt;学習習慣の定着&gt; 家庭と連携して生活時間の見直しを行い、家庭学習の習慣化を図る。(学びの指針⑦)</p>	<p>【成果指標】 テレビを見たりゲームをしたりする時間が減少し、家庭学習の時間が増加した。</p>	<p>学年目標学習時間の達成率が A:80%以上 B:60～79% C:40～59% D:40%未満</p>	<p>家庭学習振り返り週間の継続で、児童・保護者の家庭学習に対する意識を高めることができ、4月時点よりも学習量を増やすことができた。校区の小中連携の取組としてノーメディアデーを行ったことも効果的であった。</p>	B	<p>・本校の取組、分析結果、改善策等については、育友会役員の方にも毎年伝える場を設けると、学校教育活動に対する理解が一層深まると思う。</p> <p>・授業参観の出席率は、ほぼ100%であるのはよいが、学級懇談会の出席率はどうしても下がってしまう。仕方がないことであるが残念でもあるので、少しでも増えるような手立てを行えるとよい。保護者アンケートの回収率が昨年度よりも増え、ほぼ100%になったことはとてもよいことである。</p>	
	<p>&lt;開かれた学校づくり&gt; 授業参観・通信・学校評価等を通して、家庭・地域に学校の取組を発信し、地域に開かれた学校づくりに努める。(学びの指針⑩)</p>	<p>【満足度指標】 地域に開かれた学校づくりを行い、保護者・地域の方から理解や協力が得られた。</p>	<p>アンケートの肯定的回答割合 A:85%以上 B:70～84% C:50～69% D:50%未満</p>	<p>学校通信・学級通信の発行、授業参観・学級懇談会の実施、学校評価結果の公表等により、学校の教育活動の発信に努めた。地域人材を活用した授業実践を通して地域との連携を深めることができた。</p>	A	<p>・学校行事や授業等を通して、学校と地域が連携する機会があると思うが、更に増やしていくことが開かれた学校づくりにつながっていくと思う。</p>	